

やすらぎ加賀通信

第131号 2020/2/12

ブログ更新中 見てね!

かもまるくん
ですっ。

加賀市標章



今年初めての通信となります。遅くなりましたが、皆さんどうぞ、本年もよろしくお願いいたします。

立春を過ぎてから本格的な冬の到来のようで、寒い日が続いていますが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。突然の新型コロナウイルスの猛威に、全世界が混乱していますが、一刻も早く収束して欲しいですね。

相談状況 (2月は7日現在の集計)

	来室相談	訪問相談	電話相談	合計	通室生徒
12月	14	8	2	24	0
1月	20	8	3	31	0
2月	3	0	0	3	0

SC土田先生 (心理カウンセラー) の相談日

2月 14日午前

3月 6日午前 (全て金曜日)

時間 午前：9:30～11:30
午後：4時～6時



SSW星野先生 (社会福祉士) の相談日

2月 21日

3月 6日 (全て金曜日)

時間 午後2時～5時



12月～2月の活動

折り紙を切って「雪の結晶」を制作



クリスマスに向けて
ケーキ作り



バレンタインデーのリース

折り紙でバラやハートを作りました

美味しそうなチョコも、実は折り紙です!



フレンドシップ反省会

本年度のフレンドシップ活動も無事終了し、2月7日(金)加賀聖城高校校長室において反省会(活動報告会)を行いました。ボランティア活動して下さった金沢大学の学生7名の内、5名が参加し、金大の原田准教授、活動場所の先生1名、そしてやすらぎスタッフなどが集合。各学生が活動して感じたこと考えたことなどを発表し、原田先生からの助言をもらい、その後これからの課題などについて沢山の話題が出ました。



どの学生からも、大変有意義な経験になったという声が聞かれ、さらに教員になった際にはとても参考になるとの感想もありました。全員の報告書が提出されましたので、その中から一部を紹介します。

【Wさん】

私は最初学校に行けない子たちはおとなしい子たちというイメージがありましたが、実際はそんなことはなく、学校に行っている子たちと同様に元気に走り、笑い、よく話す子たちでした。少し照れ屋なところもありましたが、男女間・異学年間でも分け隔てなく接し、嬉しいことは嬉しい、嫌なことは嫌だと主張できているところが印象的でした。きちんと自分の気持ちを伝えるということはとても難しいと思いますが、それができているのは、このぞみ教室で何かの学びがあったからではないかと感じました。何かの事情で学校に行くことが難しくなっても、コミュニケーションのとり方を学ぶ場として同年代の子と交流できるこのような場所の重要性を感じました。

【Sさん】

この活動を通して、保健室や相談室の子どもたちは、ただ教室に行きたくないだけでなく、先生とマンツーマンでお話したい、学習したいという気持ちがあるのではないかと感じました。今回関わった児童たちが楽しそうに友達のことを話したり、先生と学習したりしている姿がとても印象的だったからです。教師として現場に出た際には、ひとり一人の児童をよく見て、向き合っていきたいと思いました。



【Nさん】

どんな授業でも全員が一度で理解できるようになることはなかなか難しいことだと思う。何人かは“つまずく”というのがあると思う。“つまずく”ことが悪いのではなく、それを放っておくことが問題である。そして、それが勉強嫌いの促進や、意欲が損なわれるのではないかと思う。そういう意味では、こうして“つまずく”児童に関わり、サポートできたというのは意義あることかなと感じた。

【Mさん】

相談室の生徒たちは、教室に行けない分、教科の勉強はワークやプリントで補えるとしても、音楽や体育、理科の実験、調理実習などの教科の中でも実技系の経験が不足しがちなのではないかと感じました。子供たちは大学生のボランティアに対し、歳が近いという理由で教師には言えないようなことを相談することができたり、勉強で分からないところを聞きやすかったりすることがあり、そこに必要性があると思っていました。普段相談室では行えないような実技系の活動を大学生のボランティアが積極的に行うのも良いのではないかと感じました。



【Yさん】

教室に入るのに敷居が高く内気になっているけど、相談室では本当に「普通の子」だった。これは私のびっくりすることの一つだった。あと、とても才能にあふれている。手の器用さや音楽の才能など、これらは「相談室に通っている特別な子」だからではなく誰でも持っている秘めた力なのだと思う。ただ、この子らは支援員さんなどが、子どもとじっくり向き合っているから引き出せたことなのかもしれない。普通の教室でもみんな才能があるのだと思う。しかし、相談室と違って先生がひとり一人と向き合える時間は断然少ない。

【Aさん】

Hさんと週に一度、二時間程という短い時間の中で、色々な話をし、少しずつではあるが私ばかりではなく、Hさんの方からも話してくれるようになり、やがて会話がスムーズにできるようになった。保健室の先生から、「Hさんのあんな楽しそうな笑い声久しぶりに聞いた」更に「今日はほんとに楽しかった、また会いたい」と言ってくれたことを聞いて本当に感動し、私はこの体験を胸に子どもたちに「頼りたい」と思ってもらえる教員を目指して頑張っていきたい。

【Oさん】

Nさんとは毎時間学習が終わると、いろいろな遊びをした。細かな作業が苦手なため、点つなぎをよくしていた。学校だけを見ながらおしゃべりをしたり、トランプをしたりもした。Nさんは独自のルールを作って私に投げかけ、楽しんでいる様だった。たまにずるをしようとする時もあったが、色々な話ができて楽しかった。一生懸命に勉強させようとする「先生こわい」と言われたこともあったが、後で担任の先生から楽しかったと言っていたと聞き、安心した。今回の活動を通して学習支援の必要な子と濃密に関わることができ、学ぶことが沢山あった。

ボランティアを受け入れて頂いた学校や各機関の担当の皆様、ありがとうございました！！